

平成 28 年度 ふれ愛の館しおん 事業報告

(デイサービス・第 2 デイサービス・ホームヘルプセンター・配食サービス)

1 総括

平成 28 年度は、地域包括ケアを視野に入れ介護保険事業所と生活支援（配食サービス）が他の事業所と連携を深め地域の高齢者に対して在宅での生活が 1 日にでも長く継続出来る様に支援を展開してきた。ここ数年続いてきた事業の黒字化も大きな課題であった。介護保険事業所が区内に多くあり、通所介護・訪問介護・認知症対応型通所介護等の競合がそれぞれの特色を出してきており、当介護保険サービスの経営に影響が出ている。法人で取り組んだ事業計画策定で見えて来たものは、利用者ニーズと自事業が行っているサービスの内容の相違や自事業所内との連携不足などである。経営強化において相談部門とサービス部門の経営会議においてもその都度、対策を検討し合い実践を行ってきたが赤字の解消にはつながらなかった。

各介護保険事業での経営に明るい見通しがつくように更に管理職、熟練、中堅の職員と一丸となって職員が働いていて「働き甲斐がある」と言えるような取り組みが更に必要である。

2 年度目標に対する事業報告

(1) 地域包括ケアの拠点としての機能強化と拡大

- ・法人事業計画策定への会議参加
- ・地域行事への一般職員の参加（地域盆踊り・年末夜間警備等 8 名）
- ・実践報告会で企画運営（地域介護保険事業所への招待 30 名）
- ・運営推進会議（年 2 回 第 2 デイ）
- ・住吉区介護保険居宅サービス部会 役員登録 2 名）

(2) 人事評価制度の浸透と理解

- ・個別研修計画と人事評価との併用による個別面談（年 2 回～4 回）
- ・主任とスタッフの面談
- ・プレとしての 1 年間の流れの理解（キャリアアップの説明会）

(3) 特別養護老人ホーム（小規模定員）に対する委員活動の遂行

- ・建て替え委員の参加（2 名）
- ・人材確保のためのパイプ作り（国際福祉実践報告会への参加・特養準備室担当者の配置）
- ・人事制度と併せた、ふれ愛の館しおんの理念の再構築
- ・特養等の外部施設見学（3 件）

(4) 業績赤字の解消

- ・ふれ愛の館しおん管理職経営会議の実施（月 1 回）

自事業所からの紹介率を上げる工夫・特定事業所減算の対策・利用者の新規獲得・利用者の複数利用増・利用者の臨時振替利用増・ターミナル重度者の受け入れ・通所サービス内容の見直し・個別ケアの見直し・人材定着について・内部外部居宅への営業など）

- ・第 2 デイサービスの日曜日開館、日曜日お泊り回数増加（H27 年度 14 回→H28 年度 44 回）
- ・常勤賞与の減算（0.35 減）
- ・産休育休後の離職後の補充なし、人件費の削減
- ・職員一人あたりの仕事量の増（生産性が上がる為の工夫）

(5) 認知症ケアの見直し

- ・ 定例会議による認知症ケアの研修（年6回）
- ・ 認知症高齢者に対する支援方法の振り返り会議（随時）
- ・ 訪問介護事業所による認知症対応の勉強会（リスクマネジメント）

3 今後の課題

高齢部門の黒字化が大きな課題であり、区内の競合は元より、近隣にもサービス付き高齢者住宅が建設されている。地域の高齢者に対して、四恩学園が以前から行ってきた社会貢献的なサービス展開は、経営の黒字化には繋がらないものの、見えないサービスとして継続する必要は十分ある。しかし、社会情勢を見ると、認知症高齢者の増加と病院から地域へ重度者が退院するケースが増える見込みである。3年後の高齢事業の利益の安定を図るために、今後は認知症対策と重度者の対策が経営戦略となって行く。自事業所内の連携強化を図り、他の事業所への営業活動とおして、事業所としての信頼の獲得が利益増に繋がっていくと考えている。また、職員がやりがいをもって就労できるシステムを構築し、最終的に利用者がライフステージを自己実現でき、一貫したサービスが継続利用できるよう取り組んでいきたい。法人の3年後のビジョン達成のために、まずは財源を安定するため利用率80%まで上げていきたい。